

財務戦略

当社グループは、強固な財務体質の確保と、高い資本効率を両立し、事業戦略を通じた企業価値向上のために、戦略的に経営資源を配分することを基本方針としています。

強固な財務体質と高い資本効率の両立による戦略的な経営資源の配分

①強固な財務体質

持続的な成長のための将来に向けた研究開発投資や設備投資の実施と共に、機動的な戦略投資(M&A、提携など含む)への備えやリスク耐性も考慮した上で、総資産のうち、2/3以上を自己資本にて構成し、2~3ヶ月程度の十分な手元流動性を確保することとしています。財務健全性を維持した財務体質を構築しており、D/Eレシオは0.1倍以下となっています。

②設備投資

企業価値の向上に資する設備投資を積極的に行っていきます。新機種投資や高精度生産設備のほか、自動化・効率化・省エネ化生産設備や、生産性・業務改善のためのシステム投資等を行っています。

2018年~2020年においては、3年間累計で約100億円の設備投資を行う予定であり、各年度の投資額については営業キャッシュ・フローの範囲内にてマネジメントしています。

③研究開発投資

グローバルな光学メーカーとして、高水準な技術を維持・向上させ、更には長期的な視野でのソーシャルニーズへの貢献、イノベーションの創出のため、研究開発投資は欠かせないものと考えています。

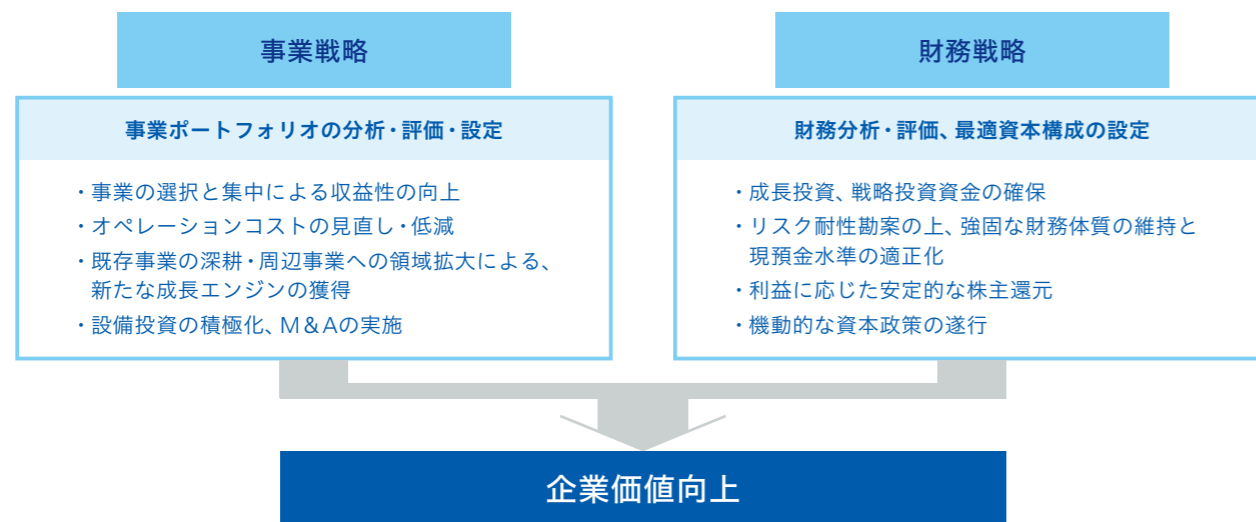
2018年~2020年においては、3年間累計で約150億円の研究開発投資を予定しており、2015年~2017年の3年間累計に対して20%以上の増加となっています。各年度としても2015年以前は売上高比5%前後でしたが、順次引き上げ、2019年では売上高比8%台へと高めています。

④株主還元、資本政策

成長投資を着実に利益成長へ結び付け、EPS(1株当たり当期純利益)の増加を図り、業績に応じた利益配分として配当性向目標を35%程度とし、安定した利益還元の継続を基本方針としています。

また、市場の状況や財務状況、資本効率などを踏まえて自己株式の取得等の資本政策を機動的に実施していきます。

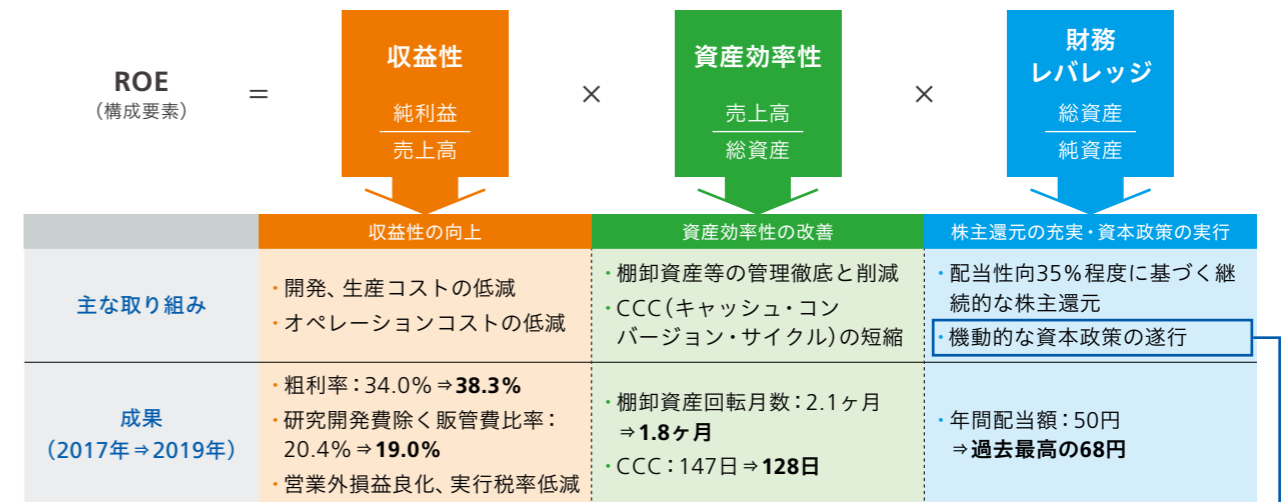
事業戦略と財務戦略の両輪による企業価値の向上



成長性と効率性を両立し、持続的な成長ができる企業体質

当社グループは、資本コストを意識した経営を推進しており、資本効率を重視し、2017年では5.8%であったROEを、2020年には自社の資本コスト(7%と推計)を上回る、9%以上へと向上させることを中期経営計画の目標と定め、様々な取り組みを行ってきました。

ROE向上への取り組み



- 2019年: 収益性は大きな成果、資産効率性も一定の成果
- 2020年: 資本政策により資産効率性、財務レバレッジを更に改善(EPSの向上にも寄与)

自己株式取得を実施(2020年3月)
 ・発行済株式総数に占める割合: 18.87%
 ・取得額: 89億円
※ 創業家の資産管理会社の株式取得を通じて

バランスシートの変遷

